

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語の主語・述語に課題があることから、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を全学年で重点的に取り組みたい。また、算数においては、図形の観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形を弁別すること、速さなどの単位量当たりの大きさを比べることに課題が見られた。共通意識をもって指導することを通して向上を目指し、R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	話し手が伝えたいことの中心を捉えることや、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることに課題が見られた。授業で指導する際意識的に指導することに加えて、自主学習コーナーに話の中心を捉える問題や、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける問題を用意し、年間を通して取り組めるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%前後なので、どちらの学年も90%以上を目指す。全学年において、学年の発達段階に応じた振り返りを実施し、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ 業前の学習タイムを活用し、漢字や基礎的な計算の反復練習に取り組ませる。その際、児童の実態に応じてノートやプリント、タブレットなど複数の方法を準備しておく。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ 大久保スタンダード【算数編】の実施を徹底し、授業において個→グループ→全体で考える時間を確保する。また、考えを交流する際タブレットや実物投影機等を活用し、様々な手法を取り入れ、児童が自己の考えを発信したり交流したりしやすくする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上を維持する。	⇒ これまでの家庭学習の指導を継続していく。その際、自分に必要な学習は何かを考えて取り組むよう、児童、家庭に丁寧に説明する。また、授業において、振り返りの時間を確実に確保し、自分は何か身に付き、何が課題なのかを考えさせる時間を確保する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査国語「知識・技能」において、R4年度調査より小3+0.2pt、小4-13pt、小5+3.7pt、小6-4.2ptであった。算数においては、小3+4.5pt、小4-0.3pt、小5+8.4pt、小6-9.2ptであった。学習タイム等において、既習事項を繰り返し復習していく必要がある。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査国語「思考・判断・表現」において、R4年度調査より小3+6.7pt、小4-4pt、小5-1.4pt、小6-0.5ptであった。算数においては、小3-2.4pt、小4-9.9pt、小5+3.7pt、小6-5.6ptであった。授業や生活において、主語と述語を意識して話す、聞く、書く指導が必要。	C
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が86.9%だった。また、市学習状況調査においては、肯定的な回答の割合が5年生87.5%、6年生93.9%だった。全てが90%以上ではなかったが、高い割合を維持できた。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、算数+2ptであった。算数においては、図形の観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形を弁別することに課題が見られた。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+0.6pt、算数-2ptであった。日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理する問題では、式と場面を関連付けて読み取ることに課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が86.9%と、90%以上を達成できなかった。しかし、令和4年度の自校結果と比較すると、+9.9ptだった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+0.2pt、算数+4.5ptであった。国語の登場人物の性格を想像して文章を読むことの問題において課題がみられた。算数では、四角形に定義を理解しているかを問う問題に課題が見られた。教科への興味関心については、算数は肯定的な回答の割合が80%と高い傾向がみられた。国語は肯定的な回答が52%と、昨年度より低下した。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-13pt、算数-0.3ptであった。国語においては、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、文章を読むことに課題がある。教科の興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が約70%と比較的高い傾向がみられた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+3.7pt、算数+8.4ptであった。国語においては、話し手の意図をとらえながら聞くことに課題がある。教科の興味関心については、算数の肯定的な回答の割合が約55%と昨年度と同様に低い傾向がみられた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-4.2pt、算数-9.2ptであった。国語においては、話し手の意図をとらえながら聞くことに課題がある。算数においては、分数、小数、整数が混合した計算に課題が見られた。教科への興味関心については、算数の肯定的な回答の割合が約60%で昨年度との比較において低下した。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、式と場面を関連付けて読み取ることに課題が見られたため、授業の中で式の数字の意味を確認しながら、取り組ませるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上を目指す。	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果では目標値達成とはならなかったが、数値の向上が見られたので策を継続する。